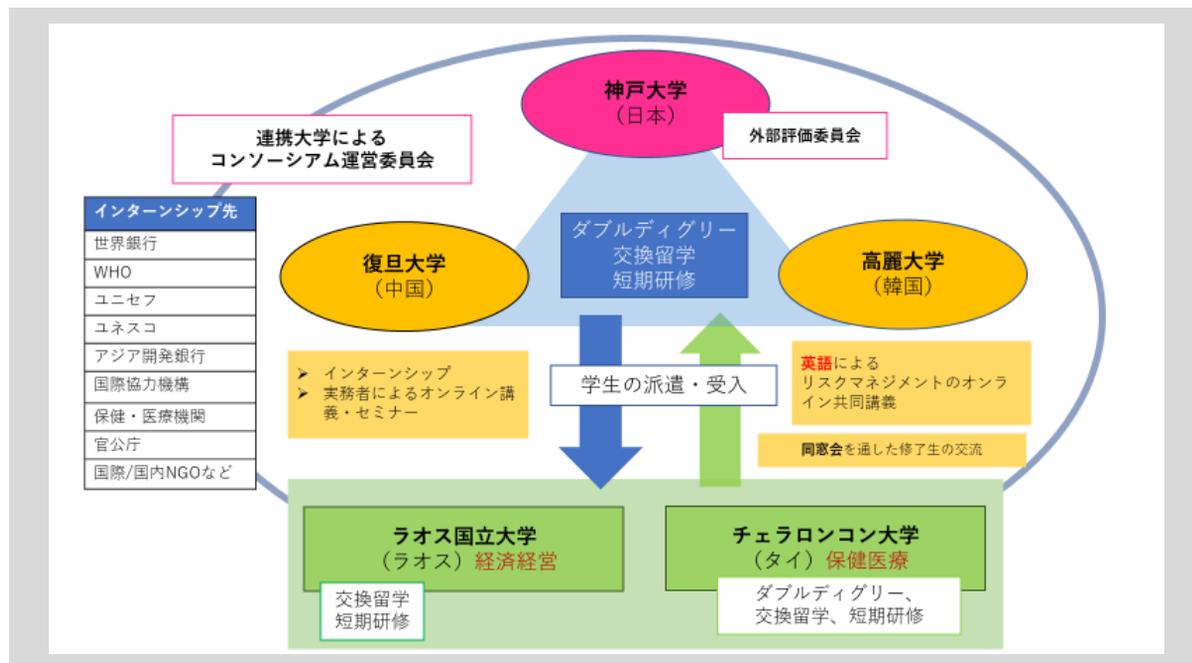


【事業の名称】(選定年度2021年度・(タイプA①))

異分野共創によるリスク・マネジメント専門家養成共同教育プログラム

【交流推進事業の概要】



【交流プログラムの概要】

- 神戸・復旦・高麗が中核となり、チュラロンコン大学、ラオス国立と連携して、教育連携プログラムを構築・発展させる。
- 質を保証した**ダブルディグリー、交換留学、短期留学、オンライン共同講義**を実施する。
- 国際機関、政府機関、二国援助機関、保健・医療機関、国際・国内NGO等での**インターンシップ**を通じて、専門的知識に基づいた実践的スキルが修得できる共同教育を提供する。

【本事業で養成する人材像】

- 政治、経済、経営、国際関係・安全保障、公共政策、人的資源、防災、国際保健(感染症を含む)の分野において、高い専門性と実践力・応用力が修得できる教育を提供することにより、**グローバルに活躍するリスクマネジメント高度専門人材・リーダーを育成する。**
- 国際機関、政府機関、官公庁、グローバル企業、保健・医療機関、国際／国内NGO等で求められる**専門的知識に基づいた分析力・応用力、語学力(英語+α)、問題解決力、政策提案能力、プレゼンテーション能力**を涵養する。

【本事業の特徴】

- **2年間で二つの学位**の修得。**リスクマネジメント修了証明書の共同発行。**
- **英語**によるリスクマネジメントの**オンライン共同講義。**
- リスクマネジメント実務者による**オンラインセミナー**と**就職相談。国際機関等でのインターンシップ**獲得。

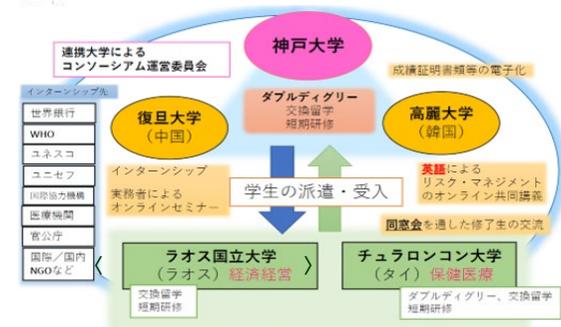
【交流予定人数】

		2021	2022	2023	2024	2025
派遣	実際に渡航する学生	6	8	9	8	9
	自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生	10	10	10	10	10
	実渡航とオンライン受講を行う学生	0	7	8	8	8
受入	実際に渡航する学生	2	9	8	9	8
	自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生	10	10	10	10	10
	実渡航とオンライン受講を行う学生	0	3	4	3	4

1. 取組内容の進捗状況(令和3年度)

【異分野共創によるリスク・マネジメント専門家養成共同教育プログラム】(採択年度 令和3年度)

■ 交流プログラムの実施状況



➢ **3大学共同オンライン講義の実施:** 神戸大学・復旦大学(中国)、高麗大学(韓国)の教員による共同オンライン講義を英語で計画通りに実施し、3大学から40名近くの大学院生が受講した。本講義では、経済学、政治学、国際関係、公共政策、環境学、人的資源開発などを専門とする教員が様々な視点からリスク・マネジメントに関する講義を行った。

➢ **国際シンポジウムの開催:** 神戸大学・復旦大学・高麗大学・チュラロンコン大学・ラオス国立大学の5大学間で共同国際シンポジウムを開催した。この共同国際シンポジウムを通じて、5大学の教員による東アジアにおけるリスクマネジメントの研究報告、学生による研究成果発表を開催し、本プログラムの成果を学内外に広く発信した。

➢ **リスクマネジメント・オンラインセミナーの開催:** リスク・マネジメント専門家を招聘し、コロナ禍問題を含め世界で起きている様々な課題についての議論を行う機会を提供した。本セミナーによって専門家とオンラインで交流する機会を設けたことで、大学院生のキャリア意識の向上にもつながり、コロナ禍においてもリスク・マネジメント専門家として国際社会で活躍するために必要な実践的な知識やスキルの修得につながった。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○日本人学生の派遣

令和3年度は、コロナ禍の影響で計画通りに大学院生の派遣・受入ができなかったが、復旦大学にダブルディグリー生2名、高麗大学校にダブルディグリー生4名、交換留学生を1名を派遣した。

○外国人留学生の受入

高麗大学校から留学生1名を受け入れた。復旦大学はコロナ禍により、全学レベルで学生派遣を中止したため、学生の受入は行わなかった。

	R3
日本(J)での受け入れ	C 0 K 1
中国(C)での受け入れ	J 2 K 0
韓国(K)での受け入れ	J 5 C 0

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

➢ **リスクマネジメント修了証明書の発行:** 令和3年度には、派遣先の大学の基準に基づき、リスク・マネジメント科目の修了要件を満たした大学院生には、3大学の研究科長の署名の入った修了証明書を発行した。

➢ **外部評価委員会:** 令和4年2月に開催し、その評価結果を本プログラムの3大学で形成されるコンソーシアム委員会と教員連絡会にて共有し、今後のプログラムの改善について議論した。外部評価委員会からは、コロナ禍においても学生の交流を継続している点、プログラム修了生が国際機関、二国間援助機関などで職に就いている点に対して高く評価された。また、海外の機関でのインターンシップ(世界銀行、ユニセフ、ユネスコ、アジア開発銀行、ラオス教育スポーツ省等)や日中韓3大学間で実施しているオンライン共同教育の発展についても、高い期待が寄せられた。

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

➢ **キャンパスアジア室による学生支援:** 海外での教育研究経験を有する専属スタッフを含む複数の職員が常駐する「キャンパス・アジア室」において、研究および生活上の両面からのサポートを、多言語対応できめ細かく実施した。

➢ **事前教育カリキュラムの整備:** 派遣・受入学生のために、語学研修、研究計画作成支援、派遣受入支援等のオリエンテーションや、各学生から学習ニーズの聞き取りを実施し、カリキュラムに反映させた。

➢ **キャリア形成支援:** 受入・派遣後を見据えたキャリアデザインの個別相談のほか、国際機関の講師を招いたキャリアセミナーの定期的実施、リスク・マネジメント関連機関への訪問・交渉などを行い、受入・派遣生の専門家としてのキャリア形成を多面的に支援した。

➢ **プログラム拡大への環境整備:** 本プログラムの博士後期課程への拡大及び日中韓トライアングル交換留学の実施を継続し、学生のニーズに沿ったプログラム開発を継続している。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況 情報の公開、成果の普及

➢ **教育プログラムの可視化:** パンフレット、ニュースレター作成のほか、Facebook及びホームページを連動させ、プログラムの広報内容及び成果について広く発信に努めた。

➢ **キャンパスアジア・プラス・プログラム キックオフシンポジウムの開催:** 令和4年2月にプログラムの事業承認と成果の普及を記念してキャンパスアジアシンポジウムをオンラインにて開催した。シンポジウムは2部構成で、コンソーシアム5大学の教員が参集し共同事業やリスクマネジメントの課題について議論するとともに、キャンパスアジア生による研究成果の発表や、同窓生によるプログラムの意義が共有された。



〈キャンパスアジア・プラス・プログラム キックオフシンポジウム〉

■ グッドプラクティス等

➢ 国際機関等の専門家によるリスクマネジメント・セミナーをオンラインで開催し、派遣・受入学生にインターンシップ先を斡旋することにより、キャリア形成支援を行った。

➢ 2021年度に当プログラムに参加した学生は、ユニセフ本部、JICA本部人間開発部、ウガンダ内閣府、マラウィ大学教育研究訓練センター、ダッカ大学社会科学部、カンボジア開発研究所にオンラインインターンシップを行った。